Polycom

医 療 ▶主な効果 医療現場での実務レベルのコミュニケーションが可能

南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター 様

医師同士のコミュニケーションで さまざまな課題を解決するために 医療現場ならではの高いレベルの要求に応える ビデオ会議システム。

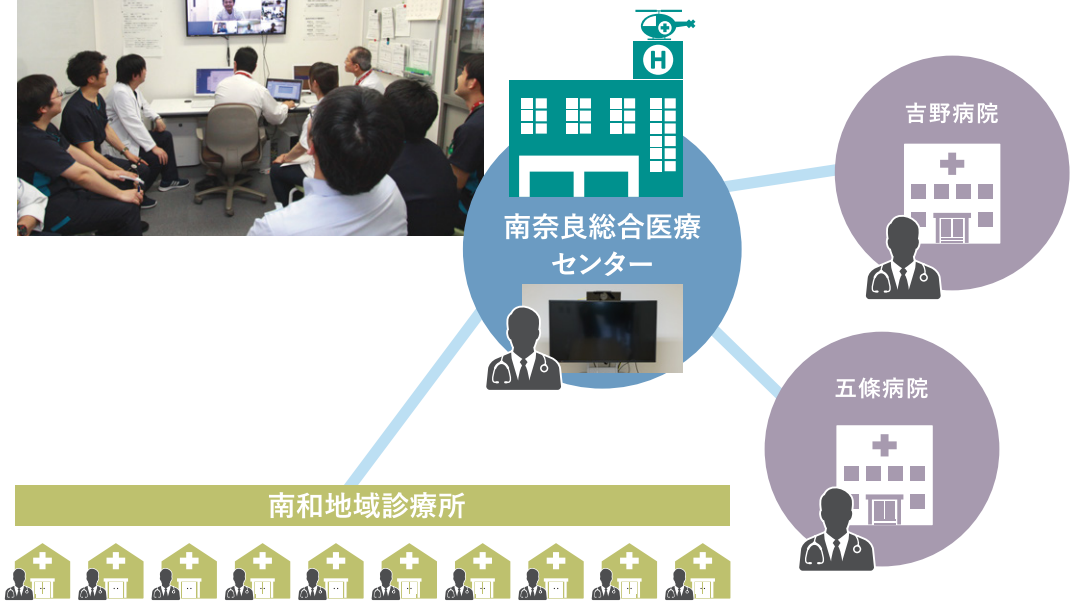
へき地の医療を担う その強い使命感を 支えるために導入。

遠隔地の患者を 手厚くケアするには 必要不可欠なシステムに。

一人で奮闘する診療所の 医師をサポートできる ビデオ会議システム。

「南和の医療は南和で守る」を基本理念として掲げている南和広域医療企業団様は、行政機関と医療機関、地域住民が一体となって、それぞれ「医療提供体制は、地域の市町村が主体的に支えていくこと」「地域住民が必要な医療を適切に受けられる体制をつくること」「医療提供体制を将来にわたり維持するためには、医療を受ける側の地域住民が理解を深め、協力すること」という方針のもと、日々協力し合って南和地域の人々の健康な生活の維持に努めています。

この地域では、少子高齢化や過疎化という社会問題が、日本の平均的な地方よりも深刻に進んでいます。救急医療や在宅医療、予防などをこうした地域で充実させるために、ポリコムのビデオ会議システムが役立っています。『導入決定』から『使用の現状』『今後の展望』まで、さまざまなお話しを伺いました。



南和広域医療企業団
南奈良総合医療センター

所在地：
〒638-8551
奈良県吉野郡大淀町
大字福神8-1
設立：2016年
院長：松本 昌美
http://nanwairyou.jp/minaminara/

奈良県および1市3町8村の医療機関が連携する南和広域医療企業団の中心的な病院である南奈良総合医療センター様。地域の拠点である五條病院や吉野病院との連携、10ヶ所のへき地診療所のサポート、ドクターヘリの運行など南和地域での医療を支えています。

■導入システム一覧

ビデオ会議システム（各拠点端末）
- RealPresence Group 310-720 EagleEye IV-4xカメラモデル
- RealPresence Debut

多地点接続サーバー
- RealPresence Collaboration Server(RPCS) 1800 エントリー 10HD720p30/30SDポート構成

運用・管理サーバー
- VBP 7301 15コールセッションモデル

距離や時間が阻害していた医師同士のやり取りを
医療レベルのコミュニケーションを実現する
ポリコムのビデオ会議システムが可能にしてくれました。

Yosuke Akashi

明石 陽介 様
南奈良総合医療センター
総合内科　部長

Nobuhiro Sawa

澤 信宏 様
南奈良総合医療センター
総合内科

Yusuke Ikegami

池上 雄亮 様
天川村診療所　所長

へき地の診療所へと若い医師を送り出す。技術や知識だけではなく、経験を補うのが拠点の先輩医師たち。医師と医師の直接のコミュニケーションで、課題を共有し解決していく。

へき地にある10ヶ所の診療所には、総合診療医としての経験を積むために若き医師たちが派遣されます。彼らは自ら希望してへき地の診療所に赴きますが、現場での実地経験という教育の側面も持ち合わせています。「充分な技術や知識を備えていますが、経験はこれから。そこは指導医や先輩医師がフォローする必要があります。」と説明する南奈良総合医療センター総合内科の澤信宏様。

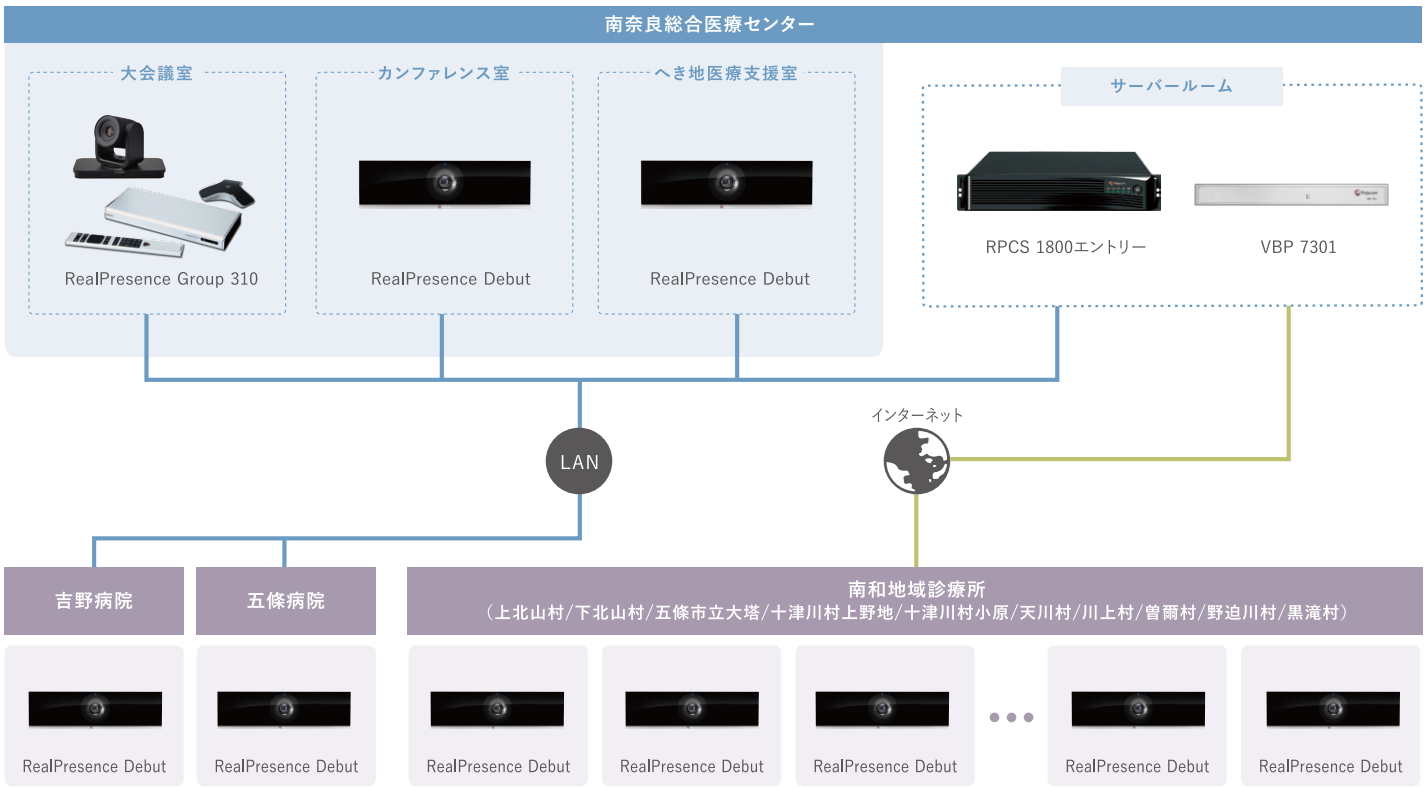
同センター総合内科部長の明石陽介様は「診療所に派遣する医師のフォローは送り出す側の責任です。現地の患者に対してのケアはもちろん、診療所の医師自身の心身の健康も配慮する必要があります。」と強く言います。診療所の医師たちをフォローすることは、へき地の医療を支えることと同じです。だからと言ってへき地とは頻繁に行き来できません。そこで医療現場で医師同士のコミュニケーションにも対応できるポリコムのビデオ会議システムの導入が決断されました。「声だけじゃなくて顔を見ればそれで充分に彼らの状況が分かりますから」と明石様。

天川村診療所の所長池上雄亮様は「一人だけですべてに対処するというプレッシャーは相当なものです。日々の診療にプラスアルファされることも多いですし、いろいろな悩みも共有できることでプレッシャーも少しは軽減されます」と語ります。画像の質についても「カルテを直接触っているような感覚」だからこそコミュニケーションがしっかり取れていると感じられます。

セキュリティの問題でデータをやり取りできない資料でも「画像を映すことで充分に共有が可能」と澤様は評価します。「音声も明瞭でキレイです。」と満足していますが、画質にしても音質にしても、それらは単純な印象ではなく、医療現場という人の命に関わる厳しい基準をクリアしているという信頼をポリコムのビデオ会議システムが得ている証です。

また明石様は言います。「初めからポリコムのポテンシャルは感じていましたが、使って慣れていけばさらにさまざまな医療の現場で役立てることができそうです。」

［システム概要］



拠点と拠点、拠点と遠隔地。さまざまな事情の患者のために医師たちが情報を共有しながらチームとして対応する。

五條病院や吉野病院とは月に1度ビデオ会議システムを使ったカンファレンス（会議）が行われます。在宅医療の情報交換が主な議題で、それぞれの地域に住むすべての在宅患者の変化などについて共有。3つの病院のどこに入院し、退院してどの地域に帰っても、必ず状況を把握したうえでの対応ができます。健康になるための対応だけではありません。地元で幸せな最期を迎えるためのフォローも欠かせません。

へき地の診療所が参加するカンファレンスも月に1度です。同センターを退院して診療所のエリアで暮らす患者たちの情報共有、診療所を受診している患者についての議論、診療所の医師のさまざまな相談、またそれぞれが参加した学会の報告なども行われます。

同センターに最も近い吉野病院でも車で20分、最も離れた診療所は3時間もかかります。その距離をポリコムのビデオ会議システムで飛び越えることが、この地域の医療を充実することに役立っています。

総合内科や外科、小児科や産婦人科、整形外科など25の診療科、
救急センターやがん相談支援センターなど9のセンター、看護専門学校も併設。

多忙な医師たちが効率よく活動できるように。医療での使用法もさらに発展させていくとともに使用法を医療に限定せず経営会議などへの汎用性ももちろん充分に考えられる。

「ビデオ会議システムを導入するには、使命感を持った医師の存在が必要でした。」と南和広域医療企業団の事務局経営企画課の鈴鹿元洋係長は言います。ビデオ会議システムを導入すれば、移動の時間と費用が軽減され、多忙な医師たちが効率よく活動できるのは当然のことですが、実際には、初期費用をどこが負担するのか、メンテナンスは誰が担当するのかなど、ネガティブな理由で見送られることも一般的には多いようです。「本来は多くの地域で導入されるべきですが」と明石様。

導入前には無料のビデオ会議アプリケーションを試したことがありましたが、やはり医療現場に耐えられるような品質ではありませんでした。

導入の際には競合と比較検討して「画像や音声の高い質」「誰でも操作が簡単にできること」「適切なコスト面」などの理由でポリコムが選定されました。

ポリコムのビデオ会議システムのポテンシャルを当初から評価している医師たちは、現在のような医師同士でのやり取りに限らず、将来的には医師と遠方の患者が直接話したり、看護師や福祉従事者などとコミュニケーションを取ったりする可能性も充分に考えられると話します。ビデオ会議システムは距離を飛び越えるものですから、地域内だけではなく、地域外との連携も想定できます。

逆に、もっと気軽にもっと頻繁に利用することも考えるべきだとも医師たちは提唱します。例えば医師同士のコミュニケーションもより自由に行えるようにするべきです。また、病院のトップたちは多忙な医師でもあります。医療目的に限定せずに、経営会議などといった病院に関わるあらゆるシーンで使用することで、医師としての時間や余裕を確保できるはずです。

1日1回以上出動するドクターヘリの運行も行う南奈良総合医療センター様。限界集落の多い南和地域の医療を文字通り支えている。

Motohiro Suzuka

鈴鹿 元洋 様
南和広域医療企業団
事務局　経営企画課　係長

取材時期：2018年4月

お問い合わせ

E-mail dcs-info@princeton.co.jp

輸入販売代理店
株式会社プリンストン　URL http://www.princeton.co.jp/

PolycomおよびPolycomのロゴ、また、polycom，Incの米国およびその他の国における商標です。
本紙に掲載している会社名と製品名は米国またはその他の国における商標登録です。
本紙に掲載している製品写真は出荷時のものと一部異なる場合があります。
本紙の本文内ではTMマークや®マークは明記しておりません。